

# 感染症

## 県中地域感染症発生動向調査週報(2025年第1週)

(令和6年12月30日～令和7年1月5日)

令和7年1月23日

定点報告 (上段: 定点当り/下段: 報告数)

区分	疾病名	2024年			2025年		2024年	2023年
		50週	51週	52週	1週	合計	合計	合計
定点報告	インフルエンザ	18.67 168	28.00 252	32.00 288	20.22 182	— 182	— 2,570	— 3,223
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	3.78 34	7.00 63	6.56 59	5.78 52	— 52	— 2,596	— 1,698
	RSウイルス感染症	0.20 1	— 0	— 0	— 0	— 0	— 104	— 110
	咽頭結膜熱	0.20 1	— 0	0.20 1	0.20 1	— 1	— 104	— 37
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.40 7	1.00 5	1.20 6	— 0	— 0	— 240	— 176
	感染性胃腸炎	2.40 12	2.00 10	3.20 16	— 0	— 0	— 696	— 1,023
	水痘	— 0	0.20 1	0.4 2	— 0	— 0	— 29	— 28
	手足口病	0.80 4	0.20 1	0.20 1	— 0	— 0	— 973	— 132
	伝染性紅斑	1.20 6	2.00 10	3.40 17	0.40 2	— 2	— 43	— 3
	突発性発しん	0.4 2	0.2 1	0.40 2	— 0	— 0	— 81	— 100
	ヘルパンギーナ	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 28	— 188
	流行性耳下腺炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 4	— 2
	急性出血性結膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 1
	流行性角結膜炎	— 0	— 0	— 0	— 0	— 0	— 6	— 9
	全数報告	結核	0	0	0	0	0	8
侵襲性肺炎球菌感染症		0	0	0	0	0	1	0

出典：福島県感染症発生動向調査週報(I DWR)より県中地域分を抜粋しています。

### 県中地域の流行状況

#### 流行中

インフルエンザ、伝染性紅斑

#### 【インフルエンザについて】

前週と比較して減少しましたが、県内全域で増加傾向が続いています。インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することで起こる病気です。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。併せて喉の痛み、鼻汁、咳などの症状も見られます。子どもは、まれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫が低下している方は肺炎を伴うなど重症になることがあります。

#### 【伝染性紅斑について】

増加傾向が続いています。ヒトパルボウイルスB19に感染することで起こる病気、小児を中心に流行します。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、ウイルスが付着した手を介した接触感染です。約10日間の潜伏期間の後、両ほほに紅い発疹、体や手足に網目状の発疹が現れ、1週間程度で消失します。発疹が出現する7-10日前に風邪症状がみられることが多く、この時期にウイルスが多く排出されます。発疹が現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。妊娠中に感染した場合、胎児水腫や流産を生じる場合があります。

通称「りんご病」



#### 基本的な感染対策をお願いします

